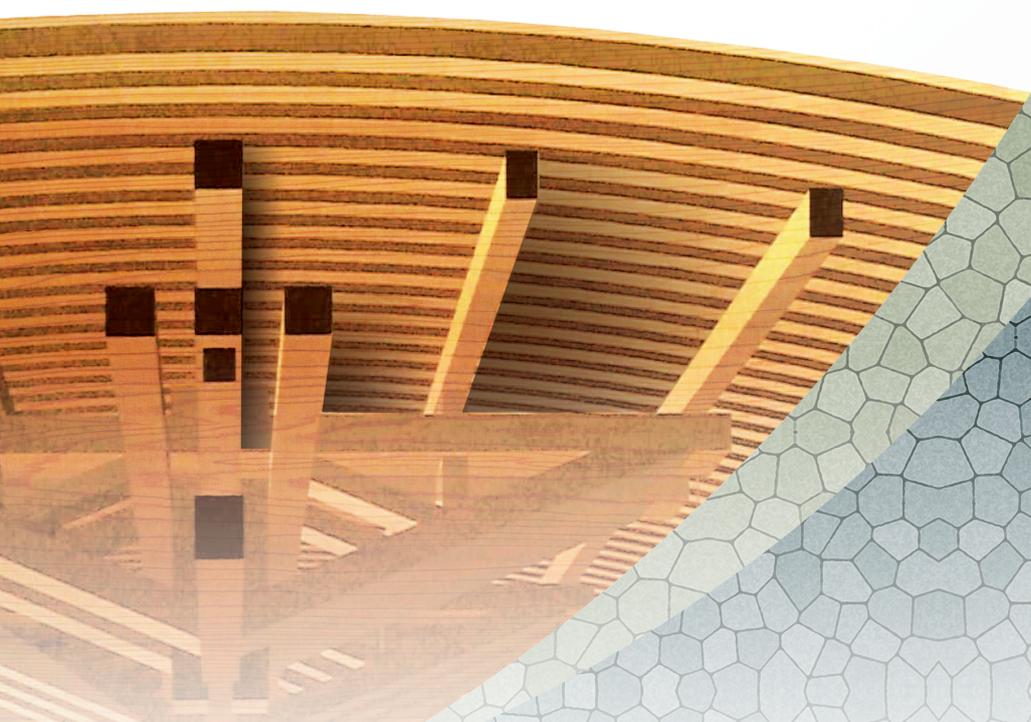


## 》》 第4章 関連事業





## 4-1 九州新幹線整備事業

### 4-1-1 新幹線整備事業の概要

昭和48年（1973年）に九州新幹線鹿児島ルートへの整備計画が決定され、本事業と連携して事業が進められた。平成23年（2011年）3月に熊本駅を含む鹿児島ルート全線が開業した。

開業までの経緯は下記のとおりである。

- S48. 11 新幹線整備計画の決定及び建設指示
- S59. 3 駅、ルート案の公表
- H7. 4 熊本駅 工事実施計画認可
- H10. 3 船小屋（現筑後船小屋）～新八代間 工事実施計画認可
- H10. 3 船小屋（現筑後船小屋）～新八代間 建設工事着工
- H16. 3 新八代～鹿児島中央間 開業
- H23. 3 鹿児島ルート全線開業（博多～新八代間 開業）

九州新幹線施設の概要は下表のとおりである。

表4-1 九州新幹線鹿児島ルート概要

施行主体	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 (旧日本鉄道建設公団)
施行延長	約257km (博多～鹿児島中央間)
駅数	12駅 (博多、鹿児島中央 含む)
最高設計速度	260km/h
総事業費	約8,920億円 (博多～新八代間)



九州新幹線パンフレット

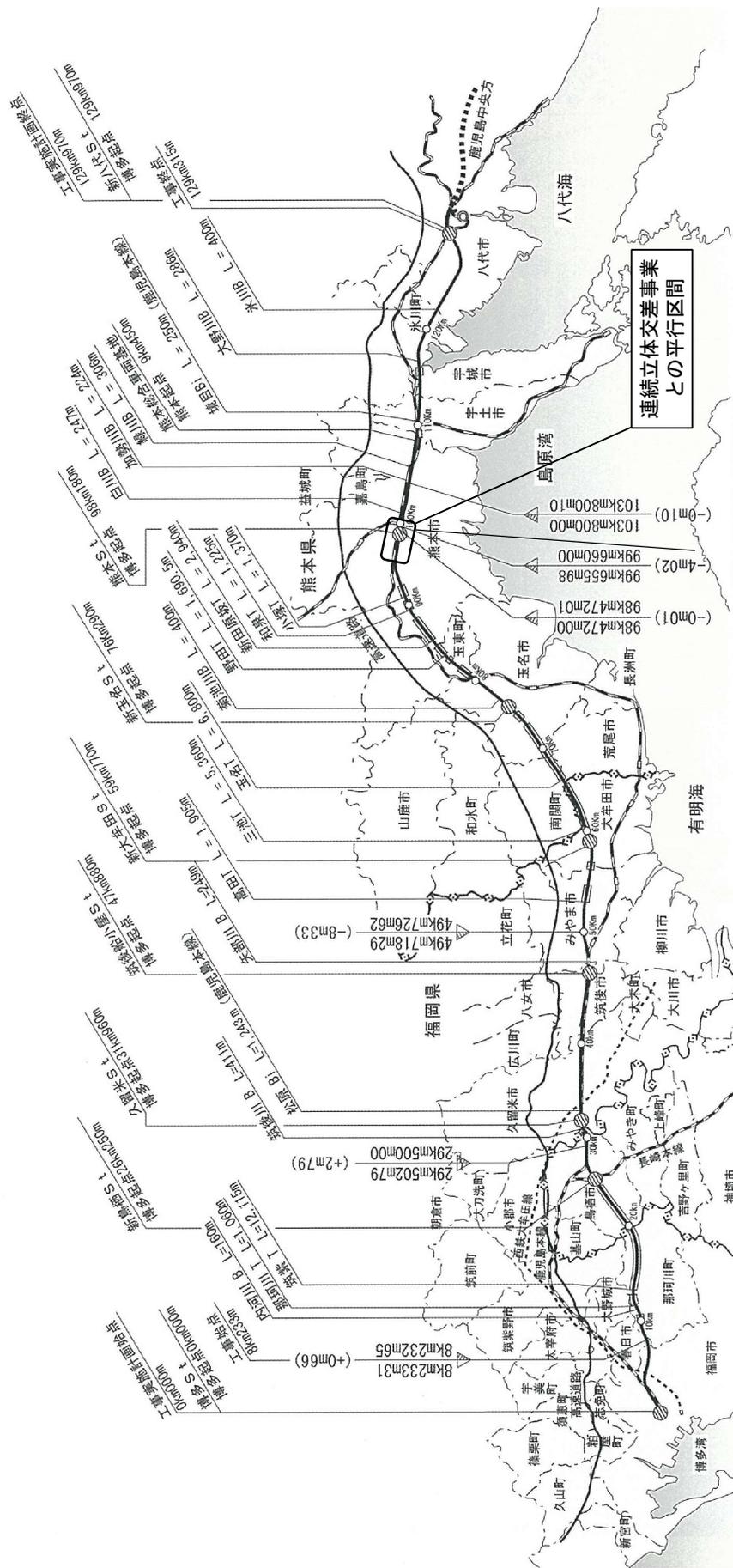


図4-1 九州新幹線線路平面図（博多～新八代間）



新幹線



新幹線



熊本駅舎ファサード



熊本駅舎（平成23年2月）



ホーム

#### 4-1-2 連続立体交差事業との連携、調整

九州新幹線整備事業と連続立体交差事業を連携して進めていくにあたっては、平成10年(1998年)11月、熊本県、鉄道公団(鉄道・運輸機構)及びJR九州の三者で覚書を交わし、協力して両事業の円滑な遂行を図ることとした。

平成11年(1999年)1月には、熊本県、熊本市、鉄道・運輸機構及びJR九州の四者で協議会(JR鹿児島本線等熊本駅付近連続立体交差事業及び九州新幹線(船小屋～新八代間)建設事業推進協議会)を設立し、円滑かつ早期の事業推進を目指した。四者協議会では、協議会の下、幹事会、作業部会、工程調整会議などを適宜開催し、協議、調整を行った。

協議、調整は、連続立体交差事業の事業区間(「2-2-2 事業区間と新幹線整備計画との関係」参照)、施行方式(「3-4-1 検討経緯」参照)などの構造的事項をはじめ、以下の事項等について図った。

- 工 程
- 施行区分
- 費用負担
- 用地処理
- 用地の使用
- 行政上の手続き
- 事業損失
- 損害、苦情等の処理
- 地元説明

在来線に近接して施工する区間では在来線への影響を低減する高架橋形状（地中の縦梁をなくす）が選定されたほか、二次仮線敷設区間では構造物下に在来線走行のための空間が確保された。

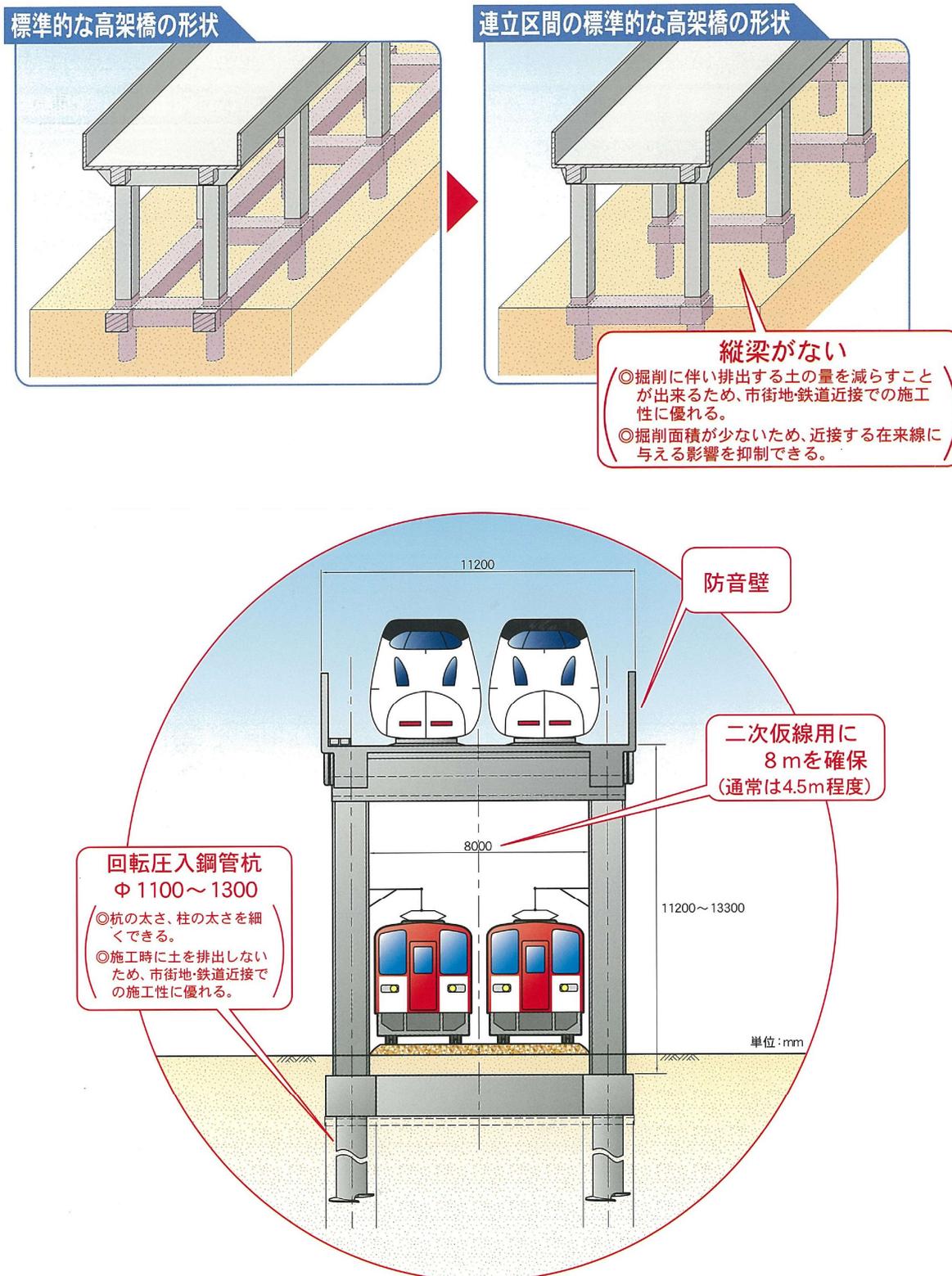


図4-2 新幹線高架橋構造の変更

## 4-2 熊本駅前広場（白川口）

### 4-2-1 白川口駅前広場の概要

白川口駅前広場は、新幹線開業時（平成23年3月）の暫定形整備と在来線高架完了後の完成形拡張整備の2段階で整備することとなった。完成形は令和2年度（2020年度）の完成予定である。

完成までの経緯は下記のとおりである。

- H13. 3 都市計画決定
- H17. 6 熊本駅周辺地域整備基本計画策定
- H17. 9 都市計画変更（旧名称 熊本駅新外線）
- H19. 11 暫定形設計者決定（くまもとアートポリス公開型プロポーザル）
- H22. 3 「白川口」名称決定
- H23. 3 暫定形完成
- H30. 1 計画に関するアンケート調査
- R 3. 3 完成形完成予定

白川口駅前広場の整備は、「熊本駅周辺地域整備基本計画」（平成17年策定）に示された考えを基に進められた。

まちづくりの観点からは、熊本駅周辺地域まちづくり推進協議会で検討された。その際には、アンケート調査、オープンハウス、ワークショップも実施され、それらを参考にしつつ提言等がなされた。

デザインの観点からは、熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議がとりまとめた「熊本駅周辺地域都市空間デザインガイド」を基本とし、ユニバーサルデザインを踏まえた空間づくり、デザイン調整等が進められた。

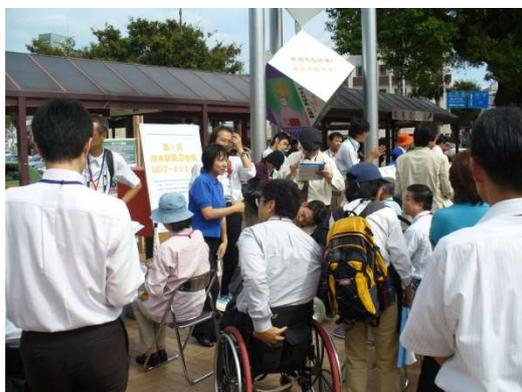
#### 【白川口駅前広場計画に関するアンケート調査結果（意見のまとめ）】

- |           |  |
|-----------|--|
| <b>交通</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズな乗り換え動線の確保</li> <li>・安全な動線の確保</li> <li>・通過動線と溜まり空間の分離</li> </ul>   |
| <b>施設</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩施設の充実（ベンチ、樹木等）</li> <li>・強い日差しや雨を遮る屋根の設置</li> <li>・トイレの設置（平常時・災害時）</li> <li>・災害時のための備蓄等の確保</li> <li>・通信機能の確保（大型ビジョン、Wi-Fi等）</li> </ul> |
| <b>景観</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸の玄関口にふさわしい空間形成</li> <li>・熊本らしさの表現</li> </ul>  |
| <b>運用</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの開催で賑わいを創出</li> <li>・飲食、物販などの日常的なイベント</li> <li>・災害時も利用可能な空間の確保</li> </ul>  |

白川口駅前広場の概要は下表のとおりである。

表4-2 熊本駅白川口駅前広場の概要

事業名称	熊本都市計画道路3・3・7号 熊本駅帯山線 (熊本駅白川口(東口)駅前広場)
事業主体	熊本県・熊本市(平成24年度以降)
都市計画	平成13年3月 都市計画決定
施行面積	〈暫定形〉約11,000㎡(交通広場を含む) 〈完成形〉約18,000㎡(交通広場を含む)
施設等	〈暫定形〉 ● 路線バス;乗降場(8台) ● タクシー;乗降場(5台)、待機場(24台) ● 一般車;乗降場(5台)、整理場(19台) 〈完成形〉 ● 路線バス;乗降場(10台) ● タクシー;乗降場(6台)、待機場(24台) ● 一般車;乗降場(7台)、身障者乗降場(2台)、 整理場(24台)
事業期間	平成17年9月 都市計画変更 平成23年3月 暫定形完成 令和3年3月 完成予定
事業費	〈完成形〉約90億円



熊本駅周辺地域UDワークショップ(平成19年10月)

4-2-2 暫定形整備

当初計画の基本デザインは、「森の中に浮かぶ雲のような大きな屋根で新たなたまり空間を創造」するものであり、それを示したうえで暫定形整備が成された。



図4-3 当初の完成形整備計画

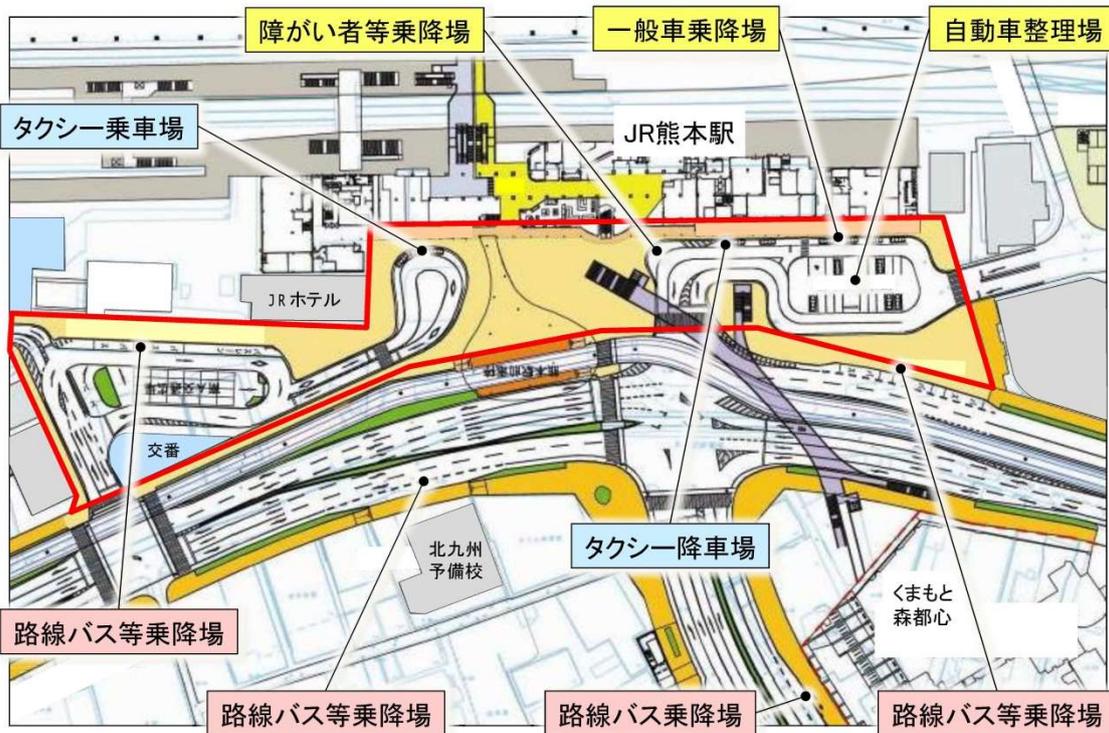


図4-4 暫定形の施設配置



暫定形整備（平成23年 8月）



大屋根工事（平成22年 1月）



大屋根（平成23年 3月）



大屋根下（平成23年 6月）



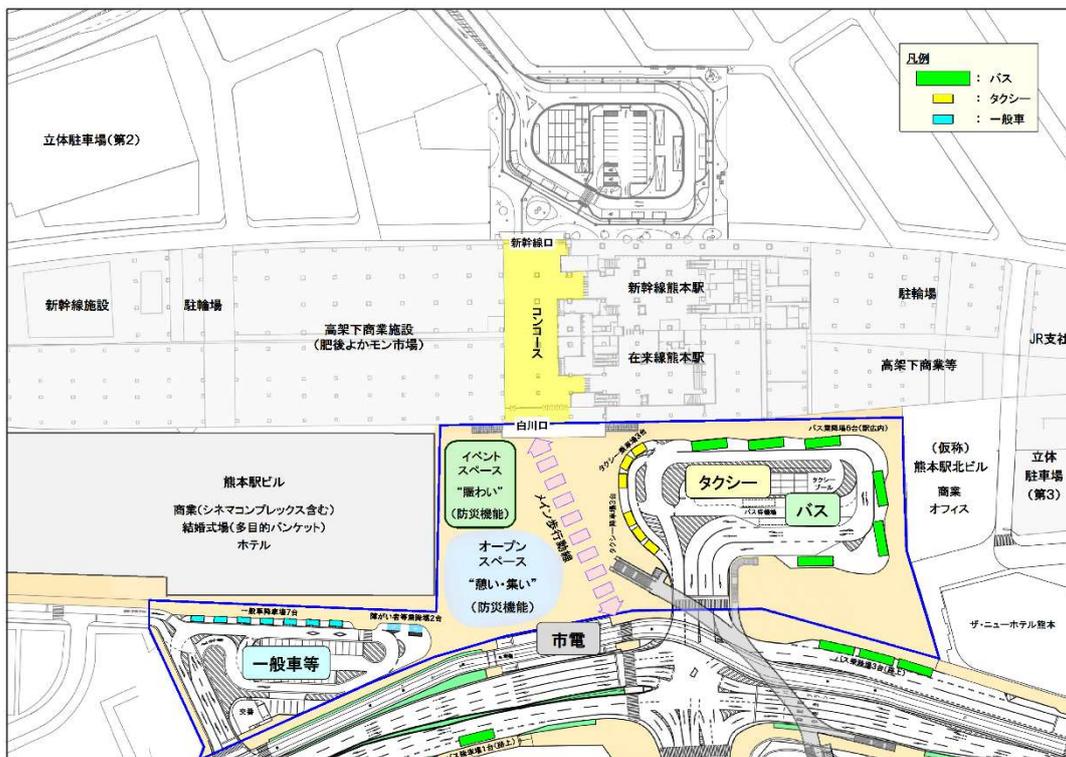
立体横断施設（平成24年10月）

4-2-3 完成形整備

JR開発構想の具体化、熊本地震の発生など、当初計画時と情勢が変化したことを受け、各交通施設の配置計画を見直し、完成形整備にあたり、新たなコンセプト及び空間的な機能配置の方針を策定し、平成29年（2017年）11月に新たなレイアウト案を公表した。その後、平成30年（2018年）7月にイメージパースが公表された。

【白川口駅前広場の新コンセプト】

- ▶ 機能的かつ開放な空間  
サブターミナル、交通広場等の機能を分担するとともに、出来る限り広場空間を確保し、賑わい・交流を演出
- ▶ 災害時の広場機能の確保  
避難場所、復旧・支援活動の拠点として活用
- ▶ 連続的で快適な動線  
各交通機関の乗降場まで雨に濡れない、明るい動線を確保
- ▶ 駅舎、駅ビルとの調和  
景観的調和、駅ビル・駅舎に対する視点場への配慮
- ▶ くまもとらしさの表現  
県産木材の配置、水と緑による「くまもとらしさ」の演出



・平成29年11月時点

図4-5 白川口駅前広場レイアウト（案）



全体イメージ



全体イメージ（夜）

資料：熊本市

図4-6 白川口駅前広場イメージパース 1



広場イメージ（春）



広場イメージ（夏）



広場イメージ（秋）



シェルター下・サイン



溜まりスペース

資料：熊本市

図4-7 白川口駅前広場イメージパース2

### 4-3 熊本駅西土地区画整理事業

#### 4-3-1 熊本駅西土地区画整理事業の概要

熊本駅西地区は建物が密集し道路も狭く公園等の施設が不足していた。また、熊本駅に隣接しているものの、その特性が活かされていないといった様々な問題が生じていた。

そこで、土地区画整理事業により道路、公園等の整備を行い、宅地の利用増進を図り、また、熊本駅新幹線口駅前広場を核とした交通結節機能を高め、商業を活性化させ、活気があり人にやさしい住みよいまちづくりを行うこととした。

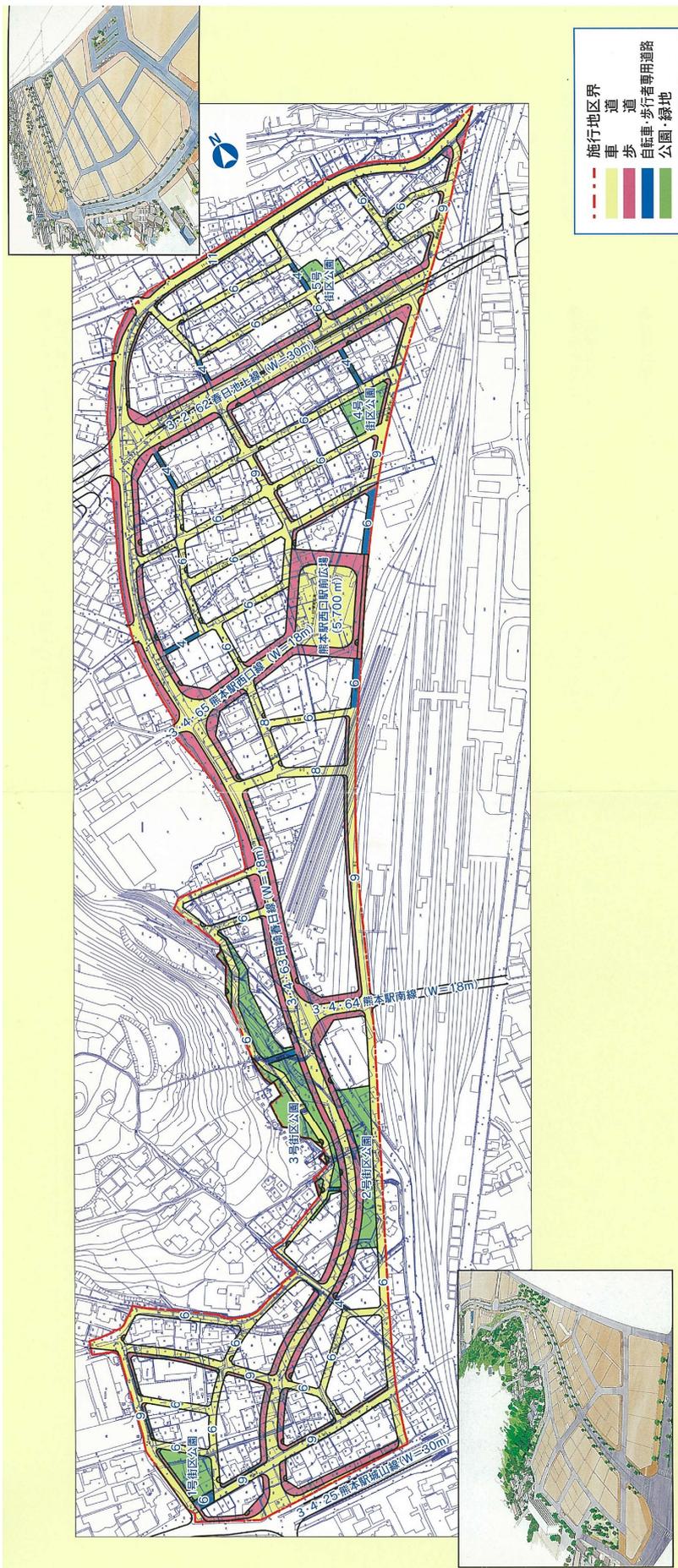
完成までの経緯は下記のとおりである。事業は、車両基地の移転と並行して進められた。

- H13. 3 都市計画決定
- H13. 12 事業計画決定
- H15. 2 土地区画整理審議会の設置
- H17. 4 仮換地の指定
- H27. 11 換地処分（公告）
- H28. 2 土地登記完了
- R 3. 3 事業終了予定

熊本駅西土地区画整理事業の概要は下表のとおりである。

表4-3 熊本駅西土地区画整理事業の概要

事業名称	熊本駅西土地区画整理事業
事業主体	熊本市
施行地区	西区春日3丁目、4丁目、5丁目、6丁目、7丁目 西区田崎1丁目の各一部 及び 春日町野辺田
施行面積	18.1 ha
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道 路                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内に都市計画決定された都市計画道路（春日池上線、田崎春日線、熊本駅西口線、熊本駅南線、熊本駅城山線）及び熊本駅新幹線口（西口）駅前広場（別途詳述）</li> <li>・区画道路</li> <li>・特殊道路</li> </ul> </li> <li>● 公園・緑地；街区公園、緑地</li> <li>● 供給処理施設；電気、電話、ガス、上下水道等</li> </ul>
事業期間	平成13年度（事業計画の決定・公告の日）～令和2年度
事業費	約238億円



資料：熊本駅西土地区画整理事業 事業計画の概要（平成27年5月版 熊本市熊本駅周辺整備事務所）

図4-8 熊本駅西土地区画整理事業計画図



熊本駅西土地区画整理事業（平成28年3月）



街区公園（平成31年3月）



コミュニティ住宅（平成22年9月）

4-3-2 新幹線口駅前広場

新幹線口駅前広場は土地区画整理事業で整備された。駅の東側と西側とを結び、人々が集い交流する拠点として位置付けられている。新幹線開業時（平成23年3月）に合わせて完成した。

表4-4 熊本駅新幹線口駅前広場の概要

事業名称	熊本駅西土地区画整理事業
事業主体	熊本市
都市計画	平成13年3月 都市計画決定
施行面積	約5,700㎡
施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バス；乗降場（3台）、待機場（3台）</li> <li>● タクシー；乗車場（2台）、降車場（2台）、待機場（26台）</li> <li>● 一般車；降車場（4台）、障がい者等乗降場（1台）、整理場（19台）</li> </ul> <p>※平成30年10月 混雑解消等のため一部改良（上記は改良後）</p>
事業期間	平成13年3月 都市計画決定 平成23年3月 完成
事業費	約398億円

設計は、くまもとアートポリス設計競技により、有限会社佐藤光彦建築設計事務所が選定された。

【新幹線口駅前広場のデザインコンセプト】

大きな穴のあいたスクリーンとルーフで覆われた半屋外の公園のような駅前広場によって、駅と街の間をゆるやかにつなぎます。

また、サインやシェルターなど駅前広場に求められるすべての機能をスクリーンとルーフに集約しています。熊本城の長壁をイメージした車道側のスクリーンは周囲の風景をまとめるデザインとなります。



図4-9 新幹線口駅前広場レイアウト（平成30年10月改良後）



新幹線口駅前広場（平成23年3月）

#### 4-4 熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業

熊本駅前東A地区は熊本駅の正面に位置するが、老朽建築物が密集しており、景観や防災の面で改善が求められていた。しかし、地権者の高齢化や地区外転出希望者の増加等により民間主導での整備が困難な状況となった。そこで、第二種市街地再開発事業として推進することとなった。

事業の執行にあたっては、「特定業務代行方式」と「特定事業参加者方式」を組み合わせた「建設業務代行方式」を考案し、全国初の試みとなった。建設業務代行者は、事業提案により選定された。

施設は3棟で構成され、「くまもと森都心」として生まれ変わった。

完成までの経緯は下記のとおりである。

- H17. 6 県市協定締結（熊本駅周辺の整備について）
- H17. 10 都市計画決定告示（高度利用地区・第二種市街地再開発事業）
- H18. 2 事業認可公告（第二種市街地再開発事業・市施行）
- H18. 10 事業提案競技（建設業務代行者公募）
- H19. 7 協定締結（建設業務代行者協定、特定事業参加者協定、特定業務代行者協定）
- H20. 5 都市計画変更告示（事業提案を受けての容積率及び用途の変更）
- H20. 8 事業計画変更公告（事業提案を受けての事業費等の変更）
- H21. 4 施設建築物工事着工
- H23. 10 くまもと森都心プラザ オープン
- H23. 11 事業計画変更公告（事業費等の変更）
- H24. 3 引き渡し、竣工式典、グランドオープン
- H24年度 清算

表4-5 熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業の概要

事業名称	熊本駅前東A地区第二種市街地再開発事業
事業主体	熊本市
事業手法	建設業務代行方式 代行者 ABILITY11グループ
所在地	西区春日1丁目
施行面積	1.4 ha
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● A棟；公益・商業棟（6階）</li> <li>● B棟；権利者棟（2階）</li> <li>● C棟；超高層住宅棟（35階）</li> </ul>
事業期間	平成17年度（事業認可公告）～平成23年度（平成24年度清算）
事業費	約211億円

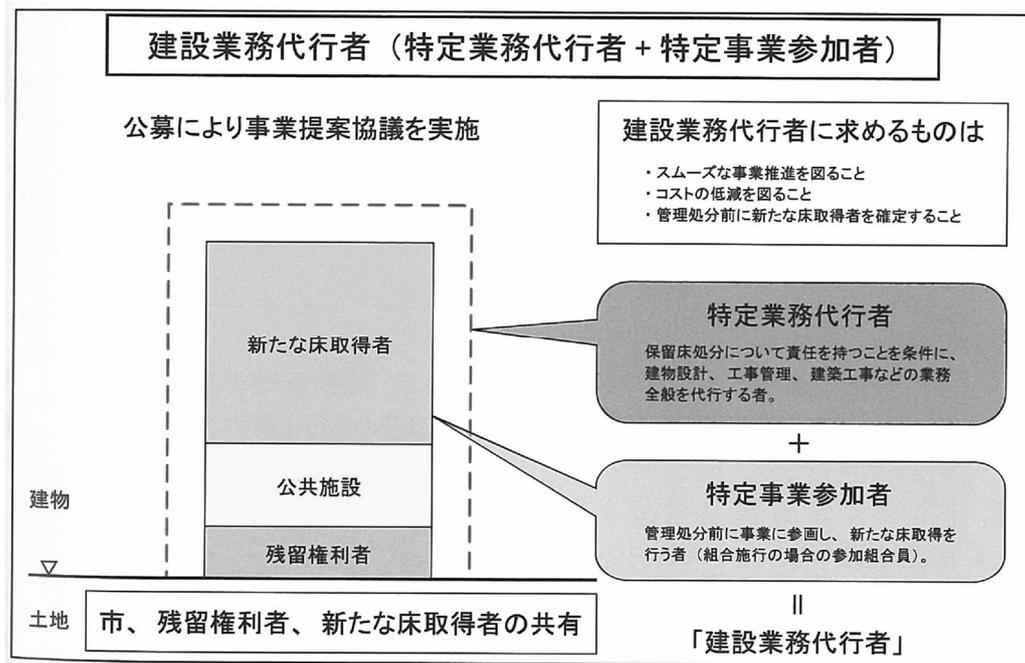


図4-10 くまもと森都心 事業手法

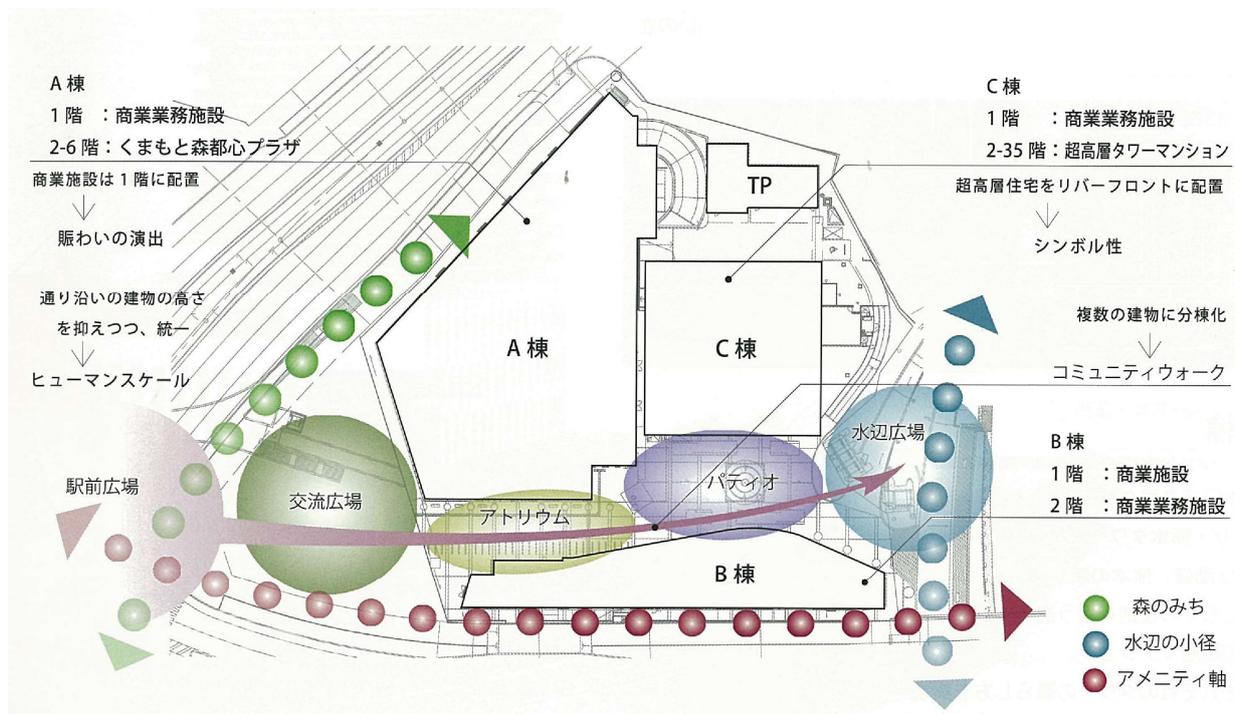


図4-11 くまもと森都心 ゾーニング



資料：熊本市

くまもと森都心



資料：熊本市

ペデストリアンデッキ



資料：熊本市

交流広場



資料：熊本市

パティオ



資料：熊本市

観光・郷土情報センター（2階）



資料：熊本市

プラザホール（5階）

#### 4-5 熊本合同庁舎移転

熊本城に隣接していた国の熊本第1合同庁舎は老朽化が進み、また、庁舎が熊本城復元整備計画区域内にあることから、月星化成工場跡に移転、建て替えが進められた。

合同庁舎には九州各県からの来訪者も多く、熊本駅周辺での飲食や宿泊など様々な波及効果が見込め、熊本駅周辺整備の核施設の一つとして位置付けられた。

A棟は平成22年度（2010年度）に完成し、九州財務局や九州農政局など6官署、約1,300人の職員が勤務し、B棟は平成26年度（2014年度）に完成し、熊本国税庁など7管署、約900人が勤務している。

完成までの経緯は下記のとおりである。

- H13. 6 九州財務局、九州地方整備局、熊本県及び熊本市で移転計画合意
- H15 用地取得
- H19. 4 全体計画決定
- H20. 2 A棟着工
- H22. 11 A棟完成
- H24. 10 B棟着工
- H26. 9 B棟完成

表4-6 熊本合同庁舎移転事業の概要

事業名称	熊本地方合同庁舎整備事業（B棟はPFI事業による）
事業主体	国土交通省九州地方整備局
所在地	西区春日2丁目
敷地面積	24,741㎡
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● A棟；地上12階、地下1階（延べ26千㎡） 6官署（約1,300名）</li> <li>● B棟；地上9階、地下2階（延べ24千㎡） 7官署（約900名）</li> </ul>
事業期間	平成15年度（用地取得）～平成26年度（完成）



熊本合同庁舎



A 棟



左：B 棟 右：A 棟

## 4-6 上熊本駅周辺まちづくり

### 4-6-1 上熊本駅周辺まちづくり計画

高架化区間を上熊本駅付近まで延伸するにあたり、駅周辺整備、まちづくりなどについて検討を行った。

平成13年（2001年）1月に「上熊本駅周辺まちづくり推進協議会」を設置し、平成14年（2002年）8月、協議会から「上熊本駅周辺まちづくり計画」の提案を受けた。

この提案を踏まえて、熊本市では、幹線道路の都市計画決定をはじめ、具体化に向けた取り組みを進めていった。

開業までの経緯は下記のとおりである。

- H13. 1 上熊本駅周辺まちづくり推進協議会設立
- H14. 8 上熊本駅周辺まちづくり計画提案
- H15. 3 2 km延伸の都市計画変更、上熊本細工町（東口駅前広場を含む）の都市計画変更
- H15. 8 2 km延伸の事業認可変更
- H15. 10 上熊本駅西口線（西口駅前広場を含む）他の都市計画決定
- H27. 3 上熊本駅高架化

#### 【上熊本駅周辺まちづくり－提案－】

##### ■まちづくりの基本方針

- ①踏切によるまちの分断解消
- ②幹線道路網整備による交通の円滑化
- ③上熊本駅の交通結節の強化
- ④安全で快適な生活環境整備
- ⑤駅周辺のまちの活性化

##### ■上熊本駅周辺まちづくりの提案

###### (1) 駅周辺道路整備の提案

- ①駅西側幹線道路の整備（図1；ルートA・B）
- ②県道熊本鈴麦線の改良（図2－①③）
- ③駅南の交差点の改良（図2－④）
- ④製粉・池田踏切の改良（図2－⑤⑥）
- ⑤駅西側の側道整備（図2－⑦）

###### (2) 公共交通整備の提案（図2－②）

- ・JR、市電、熊本電鉄、バスの結節強化

###### (3) 駅前広場整備の提案（図2－②⑧）

- ・東口広場；人々が集まりやすく安全で便利なまちの核として整備
- ・西口広場；新しい玄関口を形成するとともに、東口広場の補完機能も併せ持つ広場として整備
- ・駅東西口が一体となった交通ターミナル拠点として整備

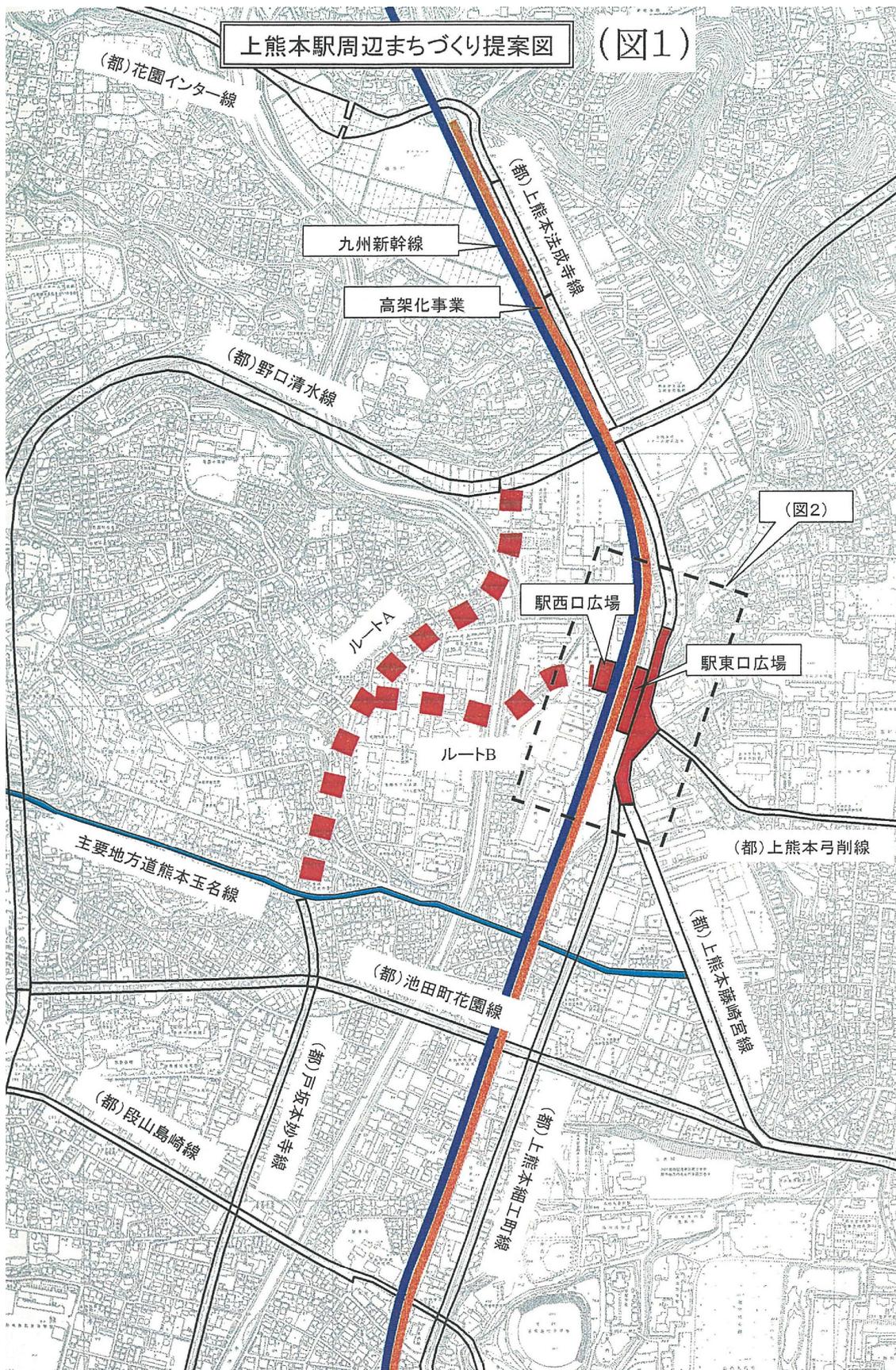
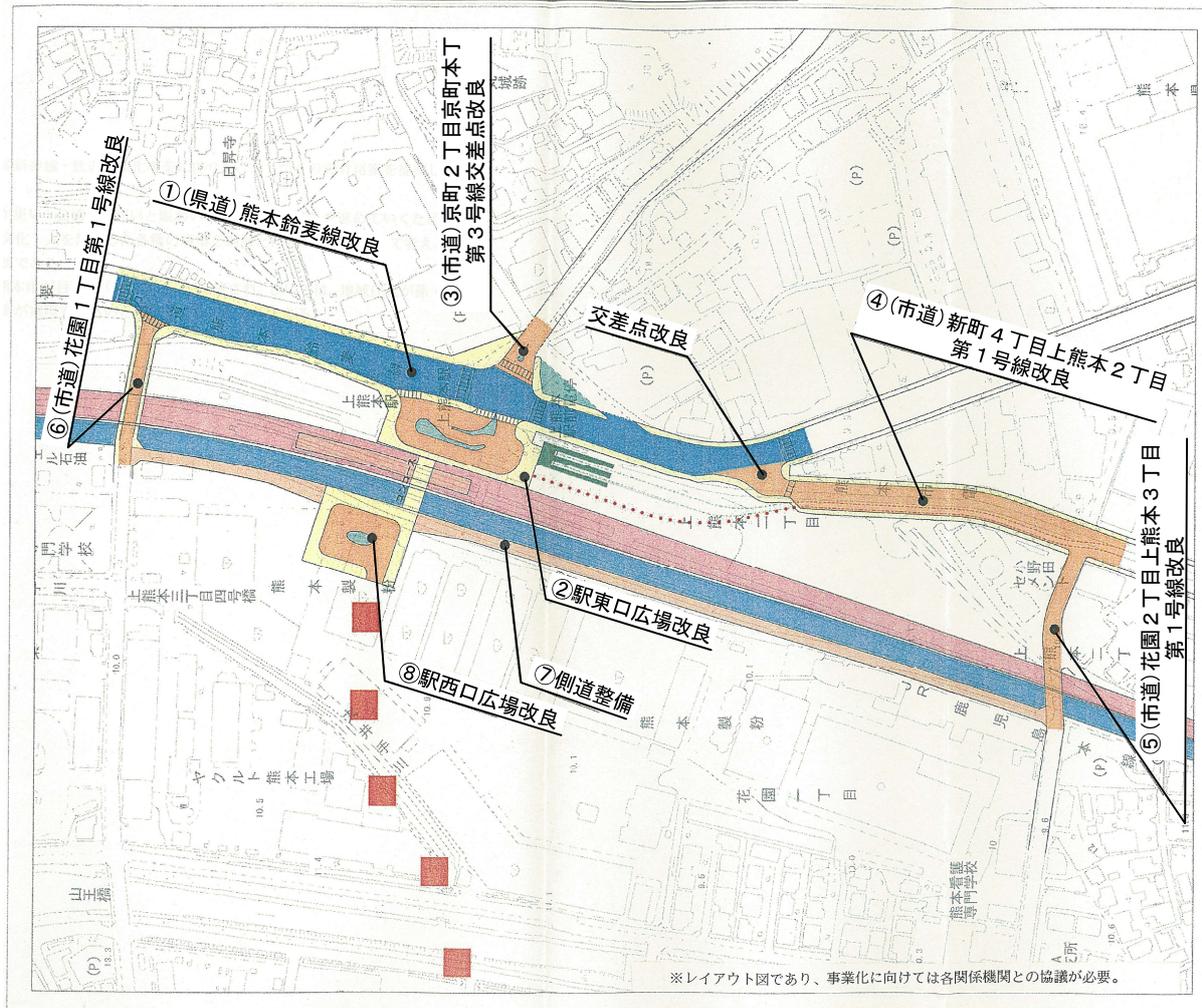


図4-12 上熊本駅周辺まちづくり提案図 図1

上熊本駅周辺まちづくり提案図 (図2)



資料：上熊本駅周辺まちづくり提案書（平成14年8月 上熊本周辺まちづくり推進協議会）

4-13 上熊本駅周辺まちづくり提案図 図2

## 4-6-2 上熊本駅前広場

上熊本駅前広場は、熊本市の地域拠点の形成に寄与するものとして、利便性、シンボル性、快適性そして安全性を持った施設として整備された。

### 【上熊本駅前広場 整備基本方針】

#### <基本的な考え方>

- 東口、西口が一体となった熊本市の『地域拠点』の形成に寄与するものとする。
- 市北西部の玄関口にふさわしい『利便性』、『シンボル性』、『快適性』、『安全性』を確保する。
- 上熊本駅東口は、J R、市電、熊本電鉄、バス等の交通結節機能が確保された、歴史の感じられる地域のシンボルとして整備を行う。
- 西口は、主に駅勢圏からの徒歩、自転車、送迎車の利用による地域の利便性の高い整備を行う。

#### <整備方針>

##### 1. 交通機関相互の乗換がスムーズに行える公共交通の結節点＝『利便性』

- J R、市電、熊本電鉄、バス、自転車・バイクの相互の乗換がスムーズに行えるようにする。
- J R高架下に駐輪場を配置することによって、ゆとりのある歩道を確保する。
- 分散しているバス停をできるだけ駅前広場（東口）へ集約化し、乗換利便性の向上を図る。  
…現在の駅前広場内バス停のバスに加え、市電駅舎前バスの乗降が駅前広場で可能となる。
- タクシー乗降場、タクシープール、自家用車・身障者乗降場、一時駐車場の機能を東口、西口で分担する。

##### 2. 市電駅舎等の歴史の感じられるデザイン＝『シンボル性』

- 旧上熊本駅舎（現市電駅舎）を景観シンボルとする歴史の感じられるデザインとする。  
…熊本弓削線や、J R通路出入口から見た景観形成を図る。
- 県道東側の既存樹木と調和するよう、駅前広場内に緑を配置する。
- 夏目漱石像を活かした駅前広場の整備を行う。
- 先行する駅舎デザインと整合を図る。

##### 3. 市北西部の玄関口にふさわしい駅前空間の形成＝『快適性』

- 誰もが快適に通行できるよう、通路、施設はバリアフリー化する。
- J R高架下を横断する歩行者、自転車の東西通路を確保し、東西の移動利便性を高める。
- 交通機関相互をシェルターで結び、雨天時のスムーズな乗換や日陰をつくる。
- 広い歩道を配置し、多目的な用途に対応できる空間を確保する。
- 駅前には駅前広場、駅周辺地域の案内板を設置する。

##### 4. 歩行者の安全性の確保、緊急時における駅前広場の活用＝『安全性』

- 歩行者、自転車が安全に通行できる通行スペースを確保する。
- 自転車動線は歩行者への影響が少なくなる位置に定める。  
…駅前広場歩道上の自転車の通行可能区間はできるだけ少なくする。
- 緊急時の一時的な避難場所、緊急活動空間としての駅前広場を活用する。

資料：上熊本駅東口駅前広場等基本設計業務委託 報告書（平成25年5月 熊本市）

表4-7 上熊本駅東口駅前広場の概要

事業名称	熊本都市計画道路事業3・4・21号 上熊本細工町線
事業主体	熊本市
都市計画	昭和21年9月 都市計画決定
施行面積	約2,700㎡
施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バス；乗降場（2台）、待機場（1台）</li> <li>● タクシー；乗降場（2台）、待機場（6台）</li> <li>● 一般車；乗降場（1台）、身障者等乗降場（1台）、 駐車場（6台）</li> </ul>
事業期間	平成15年3月 都市計画変更 平成29年6月 完成
事業費	約7億円（駅前広場分）

表4-8 上熊本駅西口駅前広場の概要

事業名称	熊本都市計画道路事業3・4・68号 上熊本駅西口線
事業主体	熊本市
都市計画	平成15年10月 都市計画決定
施行面積	約2,400㎡
施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バス；乗降場（1台）</li> <li>● タクシー；乗降場（2台）、待機場（4台）</li> <li>● 一般車；乗降場（2台）、身障者等乗降場（1台）、 整理場（7台）</li> </ul>
事業期間	平成15年10月 都市計画決定 平成27年3月 完成
事業費	約7億円（駅前広場分）

### 4-6-3 旧上熊本駅舎の保存

連続立体交差事業区間の延伸に伴い上熊本駅の高架化が決定し、上熊本駅舎は撤去する必要があった。しかしながら、地元住民及び文化団体を中心に、上熊本駅舎の保存要望が高まり、関係者等が保存、活用方策を検討した結果、熊本市が市電上熊本停留場の上屋として駅舎の一部を移築、保存することとなった。

移築、保存までの経緯は下記のとおりである。

- T2.7 上熊本駅舎完成（2代）
- H11.3 熊本県近代化遺産として調査（熊本県教育委員会）
- H15.8 上熊本駅の高架化決定
- H15.11 J R 上熊本駅舎を活かす会 設立
- H16.5 J R 上熊本駅舎を活かす会が熊本市へ要望書を提出
- H16.6 J R 上熊本駅舎を活かす会が熊本県へ要望書を提出
- H16.10 文化団体が熊本県、熊本市へ要望書を提出
- H17.2 熊本市が上熊本駅舎の一部を移築することを決定
- H17.5 J R 上熊本駅舎を活かす会 を継承した 上熊本駅舎を活かしたまちづくりの会 設立
- H18.6 上熊本駅舎移築保存完了

#### 【旧上熊本駅舎の保存】

- 移築先：熊本市交通局 上熊本停留場
- 新築部 鉄骨造平屋建 建築面積約220㎡  
移築部 木造平屋建 建築面積約140㎡
- 上熊本駅舎入口の柱、窓枠、外壁等を電停上屋の一部として移築、駅舎東側の外観を再現。
- 事業主体：熊本市
- 事業費：約58百万円

また、東口駅前広場には夏目漱石像が立っていたが（平成8年；夏目漱石生誕100年を記念して建立）、一次仮線の敷設工事により支障することとなり、駅前広場から道路を挟んだ東側へ移設された。

上熊本駅舎を活かしたまちづくりの会は、まちづくり団体などを表彰するNPO法人日本都市計画家協会から、平成20年（2008年）の奨励賞に選ばれている。



上熊本駅周辺（平成27年12月）



東口駅前広場（平成29年1月）



西口駅前広場（平成29年1月）



移築した旧上熊本駅舎（平成28年10月）



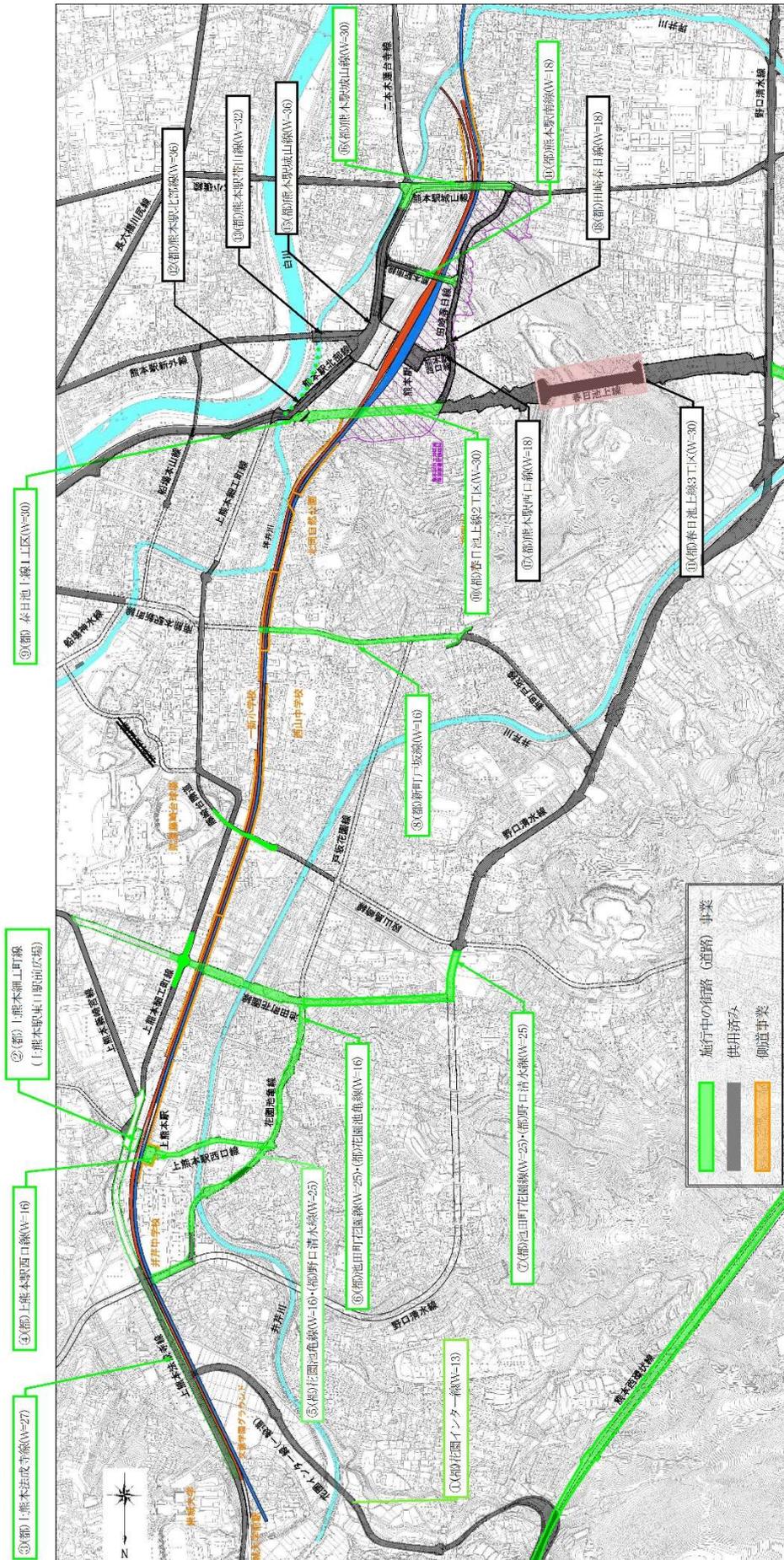
移設された夏目漱石像（平成29年1月）

4-7 都市計画道路事業（関連街路事業）

連続立体交差事業に関連する都市計画道路事業（関連街路事業）は下表及び次頁図のとおりである。

表4-9 都市計画道路の整備状況

都市計画道路名	概要	事業年度	事業費
1 花園インター線	W= 13m	H13～H28	約86億円
2 上熊本細工町線	上熊本駅東口駅前広場	H25～H29	約 1億円 駅前広場別途
3 上熊本法成寺線	W= 27m	H15～H29	約 33億円
4 上熊本駅西口線	W= 16m	H21～R 4	約 23億円 駅前広場別途
5 花園池亀線 野口清水線	W= 16m W= 25m	H18～R 4	約 63億円
6 池田町花園線 花園池亀線	W= 25m W= 16m	H22～R 3	約 96億円
7 池田町花園線 野口清水線	W= 25m W= 25m	H21～R 2	約 39億円
8 新町戸坂線	W= 16m	H14～R 2	約 42億円
9 春日池上線（1工区）	W= 30m	H13～R 2	約 35億円
10 春日池上線（2工区）	W= 30m	H13～R 2	約 28億円
11 春日池上線（3工区）	W= 30m	H16～H22	約119億円
12 熊本駅北部線	W= 36m	H17～H19	約 69億円
13 熊本駅帯山線	W= 32m 白川口駅前広場(完成形)	H17～H26 H27～R 2	約102億円 約 84億円
14 熊本駅南線	W= 18m	区画整理H18～H28 J R 区域H29～R 2	約 1億円 約 3億円
15 熊本駅城山線（南北線）	W= 36m	H18～H22	約 34億円
16 熊本駅城山線（東西線）	W= 30m	H20～R 2	約 44億円
17 熊本駅西口線	W= 18m	H14～H23	約 5億円
18 田崎春日線	W= 18m	H13～H26	約 43億円



資料：熊本市作成資料（平成30年3月 熊本市熊本駅周辺整備事務所）

図4-14 都市計画道路の整備状況

## 4-8 高架下利用

### 4-8-1 公租公課

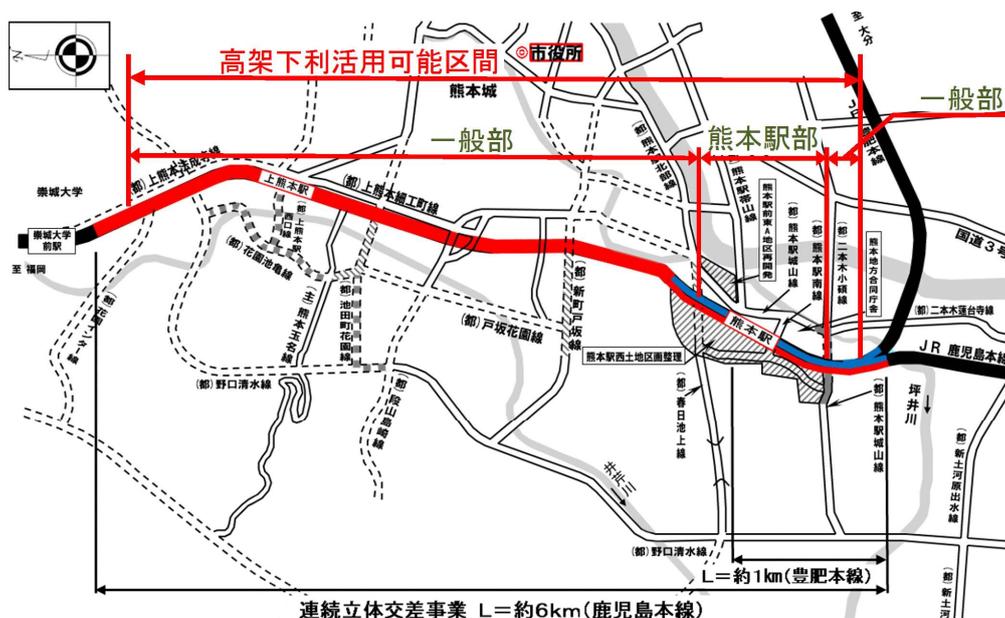
鉄道高架下空間の活用にあたっては、「都市における道路と鉄道との連続立体交差化に関する要綱及び同細目要綱」に基づき、連続立体交差事業に伴う在来線高架化によって生じる JR 所有の高架下空間のうち15%を、国又は地方公共団体が自ら運営する公共の用に供する施設で利益を伴わないものを設置する場合、公租公課相当分（無償）で使用できるとされている。

熊本市では、積極的な高架下空間の利活用を進めるべく、関係機関、地元自治会などの提案要望を調整し、「JR鹿児島本線・豊肥本線高架下利活用に関する基本計画」を定め、更なる熊本駅周辺の魅力的なまちづくりを推進することとした。そして、熊本市と JR九州とは、高架下利用協定書を締結した（平成28年3月）。

高架下貸付可能面積は、桁下高さが3.2m以上であり、河川、道路、鉄道、並びに鉄道事業用部分を除いた部分である。利用可能面積の算出については、(都)春日池上線から(都)熊本駅城山線までの区間を「熊本駅部」、それ以外の部分を「一般部」とし、それぞれの区間で15%を上限とした。

表4-10 高架下利活用面積

場 所	高架下貸付可能面積 (m <sup>2</sup> )			利用可能面積の上限 (A) × 15% (m <sup>2</sup> )
	鹿児島本線	豊肥本線	合計(A)	
熊本駅部	16,784	247	17,031	2,555
一 般 部	40,458	661	41,119	6,168
全 体	57,242	908	58,150	8,723



資料：JR鹿児島本線・豊肥本線高架下利活用に関する基本計画  
(平成28年3月 熊本市熊本駅周辺整備事務所)

図4-15 高架下利活用可能区間

並行する九州新幹線と併せて有効な高架下利活用を図るため、在来線高架下と新幹線高架下について一体利用が図れるよう、スパン割、等積付替えなどの調整がなされた。

熊本市では、高架下空間利活用施設は、沿線地域及び熊本県に幅広い意見聴取を行い、施設整備の基本的な考え方に資する施設を選定した。

表4-11 高架下利活用施設の整備概要

場 所		整備施設	面積 (m <sup>2</sup> )	完成年度
熊本駅部		駐輪場（中央）	329	H29
		駐輪場（北）	1,321	R元
		駐輪場（南）	876(調整中)	R2(予定)
		観光案内所	29	H29
		小 計	2,555	
一 般 部	花 園	まちの広場	414	R元
	一 新	駐輪場	90	H29
		地域公民館	247	R2(予定)
		一新小学校グラウンド拡張	722	H29
		高麗門及び御成道文化財整備	2,251	R元(予定)
	上熊本駅部	自由通路	160	H29
		駐輪場	1,880	H29
		小 計	5,764	
		合 計	8,319	

注：令和元年7月時点



熊本駅部駐輪場（南）



一新小学校グラウンド拡張

4-8-2 商業施設等

JR九州では、熊本駅及び上熊本駅に商業施設を開業させるとともに、駐車場、倉庫、事務所等へ貸し付けている（平成31年1月現在）。

【高架下の商業施設等】

- 熊本駅 「肥後よかモン市場」
  - ・ 店舗面積3,900㎡、60店舗
  - ・ 平成30年3月開業（平成29年年12月に一部先行開業）
- 上熊本駅 「えきマチ1丁目上熊本」
  - ・ 店舗面積2,554㎡、10店舗
  - ・ 平成28年12月開業
- その他貸付
  - ・ 駐車場、倉庫、事務所 など



肥後よかモン市場



えきマチ1丁目上熊本



駐車場・貸倉庫



JR九州熊本支社